



ら3らマ

みんなの防災

2 子育てをゼロに OHIRUGOCHAN



給食がない長期休みに子どもたちが手作りのご飯を食べられるように、川崎地区の小学生を対象にお昼ご飯を提供。子どもたちの食育のため、地域の食材にこだわったり、お弁当のふたにメニューと食育に関する情報を書いた紙を貼ったりといった工夫をしています。これからも「おいしい」という声をやりがいに、みんながおいしいご飯を食べられる社会を目指して活動していきたいです。

6 安全な水とトイレを世界中に 蛍が飛び交う清らかな水を守る 有限会社ホープイン中沢



蛍の住む里として名高い水のきれいな土地である越路地域で、稲作を中心とした安全・安心な農産物を作っています。化学物質の放出を最小化するため、減農薬栽培や環境への配慮、土壌改良など様々な取り組みを行なっております。蛍が住み続けられる豊かな自然を未来へつなげるため、持続可能な農業の実現を目指し、これからも良好な水質を守っていきます。

市民活動・虎の巻

研究テーマ // イベント申込受付時に役立つツール

イベント申込者の情報管理や連絡に苦労されている方も多いのではないでしょうか？今回はいつもメールや電話で参加者申込を受け付けている方は試してみる価値ありな申込受付時に役立つツールをご紹介します！

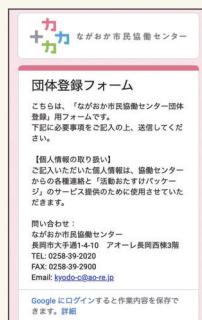
1 Googleフォーム

イベント申込からアンケートまで無料で使える！

Googleが提供しているフォーム作成ツール。イベントの申込や問い合わせ、アンケートなど様々な用途で利用されています。入力された内容を自動で集計・グラフ化してくれる機能もある、とても便利なツールです。

特徴

- Googleアカウントがあればすぐに作成でき、仲間と共同編集ができる。
- パソコンやスマートフォンなど様々な端末で利用できる。
- オンライン決済ができません。



2 Peatix

オンライン決済ができる！

イベント管理、チケット販売・集客が行えるウェブサービス・モバイルアプリ。個人・法人問わず契約書の締結などの手続きなく、ユーザー登録しただけでチケット販売ができます。初期費用と月額費用が一切かかりません。

特徴

- フォローには、次のイベントを自動でお知らせすることができる。
- 申込者全員に一斉メッセージを送ることができる。
- 申込者が有料イベントの参加費をオンラインで支払った場合、主催者が手数料(1回につき4.9%+99円)を負担しなければならない。



MEMO 実際に利用してみたい方は詳しい使い方をお伝えしますので、協働センターにご相談ください！

センターからのお知らせ

市民活動の情報収集にどうぞ！ 協働センターの情報・図書コーナー

協働センターには、市民活動団体のチラシパンフレット、支援情報や市民活動に役立つ書籍やDVDを設置しています。図書コーナーには、NPOの運営やファシリテーション、チラシのデザイン方法など活動の参考になる本がたくさんあります。貸出もしているので、ぜひ皆さんの活動にお役立てください！

本の借り方

- 貸出期間/2週間
- 貸出点数/5点まで

蔵書はオンラインサービス「リブライズ」にて確認できます。

※一部登録していない図書もございます。



発行/ながおか市民協働センター
〒940-0062 長岡市大手通1丁目4番地10 シティホールプラザアオーレ長岡 西棟3F
Tel.0258-39-2020 Fax.0258-39-2900 Mail.kyodo-c@ao-re.jp URL.https://nkyod.org

つながるラジオ FMながおか80.7MHz 毎週月曜17時頃～
[NAGAOKA PLAYERS]と「長岡みんなのSDGs」を放送中!

市民活動のポータルサイト コライト

要チェック! タイムリーな情報と協働センターの日常

@NkyodoCenter @nagaoka_kyodo @nagaoka_kyodoc



地震や水害といった自然災害への備え 多くの人に興味や関心をもってもらい 自分ごとになる地域の防災活動とは

特集

特定非営利活動法人くらしサポート越後川口 POP☆STAR 日越地区地域安全部会

NAGAOKA PLAYERS 長谷川 奈々さん

長岡みんなのSDGs OHIRUGOCHAN 有限会社ホープイン中沢

市民活動・虎の巻 イベント申込受付時に役立つツール



ながおか市民協働センター

「みんなの防災」

みんなに興味をもってもらうための、地域の防災活動の工夫とは

らこって編集部が長岡市を縦横無尽に駆け回って見つけた、協働や市民活動に関する情報をお届け。

今月号のテーマは、「みんなの防災」。

防災を自分ごととして考えてもらうきっかけづくりに取り組んでいる地域の防災活動を紹介します。

平 常時に助け合い、有事に困りごとを解決できる関係性をつくることは、地震や水害といった自然災害による被害を防ぐことにつながります。内閣府が実施した2017年の防災訓練の世論調査によると、訓練に参加したことがあると答えた人は40.4%^{※1}です。過去30年の中で最も低い2005年の27.5%^{※2}と比べると上昇しているものの、依然として半数以上が防災訓練に参加したことがないという状況が続いています。参加の年齢層も60歳以上の男性が最も多く、若者や女性の防災活動への参加が少ないのが現状です。そこで今回は、長岡市内の団体や地区で、防災をより身近に感じてもらうために工夫をしている活動をご紹介します。

あそびから防災を学ぶ

特定非営利活動法人くらしサポート越後川口（以下、くらしサポ）は、川口地域で親子が参加できる防災イベントを年に数回開催

しています。防災イベントと聞くとハードルが高そうですが、「歩いて作って食べて 防災ピクニック」など親子がワクワクしながら一緒に楽しめる企画づくりを心がけています。なかでも好評なのが「段ボール秘密基地（シェルター）を作ろう!遊ぼう!」です。当初は段ボールで迷路を作る企画でしたが、今は段ボールで秘密基地やイスを作り、災害時に役立つ段ボールの使い方をマスターできる内容にしています。くらしサポスタッフで防災士の覚張裕香さんは、「1回やったことを家で実践して覚えてもらう。そのような体験を繰り返していくことで、結果的に有事の避難所生活でも使えるような防災の知識を楽しみながら学んでくれたらうれしいです」。講座で段ボール工作の基礎を学ぶと、自分で応用してベッドやソファを作る参加者も。帰宅後にも段ボール工作をする子どもが続出するそうです。親子で楽しんでいるうちに、自然と防災を学べるモデルケースとなるような取り組みです。

ママの不安から生まれた防災

中之島地域のママが気軽におしゃべりできる場所をつくるPOP☆STAR。誰でも無理なく参加できるよう、活動日は固定せず、それぞれが趣味や特技を活かしたイベントを開催することでママ同士のつながりを育んできました。2021年からは、いつ起こるかかわからない災害から子どもたちを守るため「中之島☆親子 防災プロジェクト」に取り組んでいます。まずはメンバーから防災に興味をもってもらうために、長岡市内で活動する防災士から災害時の備えの話や聞ききました。そこでメンバー間の防災への関心に温度差を感じたため、「防災バス遠足」や防災グッズを作成するワークショップを企画しました。プロジェクトメンバーの小野順子さんは、「今地域にいるママは7.13水害や中越地震といった災害を経験していない人がほとんど。家族や地域を守るため、ママだからこそできる企画で防災の大事さを伝えています」。今後は、バッククッキングや避難所体験など更に学びが深まるイベントを実施予定。活動を更に広げるためにママネットワークを活かしたSNSでの情報発信にもチャレンジしています。ママが「もし災害が起きたときに、自分たちが困ることはなんだろう…」という視点の企画だからこそ、当事者にとって本当に役立つ防災活動につながっています。

小中学生にも訓練時の役割を与える

昔から地域の結束が強い日越地区。町内対抗の「日越地区連合町内会運動会」は、2019年でなんと67回を迎えました。そんな日越地域が大切にしているのが、顔が見えるコミュニティをつくること。2003年から開催している「日越地区合同防災訓練」には、2014年頃から小中学生にも積極的に参加を呼びかけています。日越地区地域安全部会の丸山隆さんは、「子どもたちにしっかりと役割を与えることで、災害発生時には大人と同様に動いてもらえるような訓練の内容にしています。特に中学生には何かあったときに地域を助けてもらいたいと考えていることもあり、積極的に地域のボランティア活動に参加してもらっています」。訓練では、小学生からは防災の壁新聞の掲示や発表をしてもらい、中学生からは大人と同様に心肺蘇生訓練などに参加してもらっています。お客さんではなく、地域の一人として訓練することで生まれる子どもたちの責任感。そのような役割を与えることが、地域の防災力向上にもつながっているのかもしれない。



特定非営利活動法人くらしサポート越後川口



POP☆STAR



日越地区地域安全部会

- ① 2021年9月に開催した「親子DE体験 災害が多い今こそ防災体験教室」。水消火器体験や防災カードゲームを楽しみました。
- ② 2021年10月に開催した「防災バス遠足」。防災クイズや消防本部の見学など親子で防災を学ぶことができました。
- ③ 毎年7月に実施している合同防災訓練の様子。マイタイムラインの作成や初期消火訓練などを実施しました。

持続的な防災活動のために

今回は、効果的で持続的な防災活動をするためには、参加のハードルを下げるため「楽しさ」を取り入れたり、異なる立場ごとの「当事者視点」を取り入れたり、人を巻き込むために「役割を与える」といった工夫をしている活動をご紹介します。頻発する自然災害により地域生活への不安が高まる中、一人ひとりが防災意識をしっかりと、家庭や地域における身近な対策を着実に実施していくことが、災害時の備えには不可欠です。地域の持続的な防災活動のためにも、多様な主体による創意工夫が今後も求められていくのではないのでしょうか。

※1 内閣府「防災に関する世論調査(2017年11月)」より
※2 内閣府「水害・土砂災害等に関する世論調査(2005年6月)」より



特定非営利活動法人くらしサポート越後川口

2011年設立。誰もが安心して暮らせる活気ある地域社会をつくるため、川口きずな館の施設管理及び運営やイベントの開催をしている。



POP☆STAR

2016年設立。メンバーの趣味や特技を活かした英語の歌遊びや料理教室、ハロウィンパーティーなど自分たちも無理なく楽しめるイベントを開催している。



日越地区地域安全部会

2003年より日越地区連合町内会で防災訓練を始めた。その他にも日越小学校の4年生の総合学習の授業で壁新聞の作成などの防災教育をしている。

誌面で紹介しきれなかった、防災活動を身近にする活動をしている団体を掲載中!



コライト特集ページはこちら



ウワサのあの人にインタビュー!

NAGAOKA PLAYERS

子育て中に孤独を感じたママがボランティア活動で社会とつながる理由



長谷川 奈々さん

専業主婦 / KNH五色百人一首クラブ レッドキャッツ
小学校の図書ボランティアやコミュニティセンターの広報委員など、様々な面から地域に関わる4人の子どものママ。

母子保険推進員(母推)に小学校の図書ボランティア、コミュニティセンターの広報委員、そして百人一首の札を20枚ずつ5色に分けて2人で取り合う「五色百人一首」のクラブチーム「KNH(京都長岡東山)五色百人一首クラブ レッドキャッツ」代表。「私は自分から何かを始めるのではなく、何かしたい人の想いに共感して一緒につくり上げていくタイプ」と言う長谷川奈々さんは、4人の子どもを育てる中で培われたマルチタスク能力を活かし、様々な活動を支える縁の下の力持ちです。

活動に参加するようになったきっかけは、子育て中に感じた孤独にありました。「子どもたちを必死に育てている中、世間から取り残されていると感じ、自分の空いた時間を人に役立てて社会とつながっていたいと思いました」。ちょうどその頃打診を受けていた母推に就任した後、小学校の図書ボランティアやコミュニティセンターの広報委員としても活動を開始。2020年に子どもの担任の先生から「日本一の五色百人一首のチームをつくりたい」と声をかけられ、スポーツ少年団としてレッドキャッツを設立しました。

「二足のわらじ」ならぬ「四足のわらじ」を履いて生き生きと活動する中、仕事とは違うやりがいを感じているそう。「仕事のようにやらなければいけないことが最初から決まっている訳ではないので、活動していく中で自分が何をしたいのか見つめ直すことができます。その上で、他のメンバーとの和も大切にしつつ、自由にやりたいことができるのはボランティアの醍醐味ですね」。

「『地域活動』や『市民活動』と言うとハードルが上がってしまっていますが、私がしているボランティアは気軽に参加できることが一番のポイントです」と話す長谷川さん。「社会とつながる」と言うともまず仕事をイメージしますが、自分にできるボランティア活動を通して人とつながるという方法もあるのかもしれない。

